審査の結果の要旨

氏名　細川武稔

本論文は、中世の寺院のあり方を室町幕府との関係から考察したものである。中世の権力と仏教との関係については、黒田俊雄氏による顕密体制という学説があって大きな位置を占めてきたが、それが最も弱点を有する中世後期のあり方を検討し、説得的な宗教体制論を築こうと試みている。

第一部では、「室町幕府による仏教界編成」と題して、将軍家の祈祷を担った護持僧の存在を浮かび上がらせ、禅宗による幕府の祈祷について三つのシステムを明らかにし、幕府儀礼における諸宗派寺院の僧侶の役割を示し、さらに将軍家の祈願寺の性格とその特質を摘出するなど、多方面から室町幕府の仏教政策を明らかにしている。

第二部では、「京都の寺院と室町幕府」と題して、寺院の空間的配置の意味づけという観点から、寺院と室町幕府との関係を捉えようと試みる。まず将軍家の邸宅と深い関わりのある等持寺・相国寺に注目して、幕府御所と将軍家菩提寺との位置関係のもつ政治的意義を考察し、続いて足利義満によって開かれた京都の新都心ともいうべき北山の空間構成を解明し、さらに東山に建てられた清水寺周辺の禅律院や東岩蔵寺というほとんど知られていなかった寺院を新たな史料の発掘によって浮かび上がらせる、などの作業によって、幕府と寺院の関係に新たな視点から鋭いメスを入れた。

このように本論文は、権力側からだけでなく寺院側からの視点も取り入れて、室町幕府と寺院との関係やその変遷について基本的な事実を明らかにした点において、また建築史と仏教史の成果を巧みに採り入れながら、文献史料の着実な読み込みによって幕府と宗教との関わりについて総合的な理解を提示した点において、さらにまた埋もれていた史料を丹念に発掘して京都の寺院の様相を明らかにし新たな研究の方向性を示した点において、大きな成果をあげている。

ただ室町幕府の仏教界編成の全体像という点になると、やや漠然としていて具体性に欠けるが、室町幕府という曖昧な権力のあり方からするとやむをえない面もあり、また史料の読みの疑問点についても、論旨を左右するものではない。

そこで委員会は、室町幕府と京都の寺院との関わりを解明した本論文の達成が今後の研究に大きな基礎を築いた点を高く評価し、博士（文学）にふさわしい業績と認めることで一致をみた。